元氣の出る話

くすぐるために用意されたボスターに違いない。が、もつとの

西日本新聞社友相 羽

克

J R九州では四割引に踏み切るなど、高齢者優遇で乗客増に躍起だが、駅や車内広告で目立つPRの一つに老人への呼びかけがある。年はとても元氣いっぱいなの男女のイラストにそれぞれ、次の五行句がある。

男、六十五歳。
もう、愛想笑いはしません。
わたしは、わたしに正直になります。

「いいトシをして」と言われるようなコトも、やぶさかではありません。
私の人生です。
女、六十歳。

ワタシは、すこしわがままになります。
自分の、内なる声を大切にします。
生きていく今を、味わいづくしたいのです。
ワタシは主婦です。でも、その前に女です。
女は度胸です。
これは当世風老人の旅心を

すくすぐるために用意されたボスターに違いない。が、もつとのびのび周りに気がねせず、思い切り羽を伸ばす趣旨から、ちよいと飛躍してみたい大胆な発想を誘発する仕掛けではないのか。
この文章はよほど優れたコピーライターの心憎い作かもしれない。女は度胸どころか、とうに夫離れして脱線の体たらく。湯治場をのぞけば、この種女性群に圧倒されてしまう。むしろ、留守居役の亭主よ負けずに奮いたてと、ひそかに励ます寓意も込められている気がする。

さて、国勢調査によると、六十五歳以上のお年寄りは二千二百二十七万人。総人口の一七・五％で、十五歳未満人口を上回る勢いになった。しかも、二〇〇〇年国民生活調査では、高齢者世帯は初めて六百万を突破した。この二十五年間で六倍に増えている。

これ以上長生きされては、若い者はアップアップという人口構成だが、一回限りの人生。下手に遠慮することはない。元氣老人、生涯現役でこの

世の中へのそれなりの貢献度は心得ている。

先日も、昔の村の中での唯一の小学校の昭和十二年卒業生同窓会に出席した。参加は十五人だったが、呑み放題、カラオケつきの幹事の親心。呑めや唄えに続いて二次会も盛り上がった。

綿密な幹事の追跡調査によると、生存、死亡それぞれ三十二人。現役の戦死組も多かった。にしては長らえて喜寿を迎えた幸運者がいっぱい。元氣はつらつ、口々に来年は女性陣も招こうと誓い合った。

ボケ知らず、元氣のコツは大脳生理学者の大島清さんによると「カキケケコ」説。
カは感動、キは興味を抱く、好奇心。クは工夫を凝らしてアタックする。ケは心と体の健康。とくに脳味噌の活性化が大事。コは恋、これこそがポイント。お色気、異性への関心と明言なさる。この先生も昭和二年生まれ。
また、徳川家康、秀忠、家光の三代にわたり親交のあった天台宗の高僧、天海は、長生きの秘訣を問われ次の歌二

首を贈った。

気は長く つとめはかたく
色うすく 食細うして 心
ひろかれ
長命は 粗食 正直 日湯
陀羅尼 折々御下風 遊
ばさるべし
日湯は毎日風呂に入り清潔に。陀羅尼は読経。御下風はおなら、ときには息抜きを。

吉本興業の中郵会長は男が女にもてる十条件を上方落語「稽古屋」から紹介している。
一見栄え、二男、三金、四世芸、五精、六純情、七科白、八力、九肝、十評判。

一は第一印象、二は美男子がトク、五は働く姿だが声、性でもいい。六は少々欠点があれば母性本能をくすぐる。七は話術。八は健康の力。九は度胸、決断力。十は世間の声（以上二項目は上前淳一郎『読むクスリ35』文藝春秋刊から）。
初志の彼女が気になる同窓会
ゲーリンが連れ合いになる五十年
果てるまで妻は達者と肩を引く
（『月刊シルバー人材センター』から）

うわさ 第67巻 第9号 通巻801号
禁コピー・無断転載
1部 210円 送料68円
1年 3,300円 送料共前納
編集兼発行人 寺田・弘
発行所 雑誌うわさ社
福岡市博多区冷泉町1番8号
zasshi-uwasasha@mth.biglobe.ne.jp
http://www5a.biglobe.ne.jp/~uwasas/
電話092 (271) 0089番
☎090-1970-1271
〒812-0039 振替01710-9-16664番

専門 検定
メガネの岡
シティックスカートの店
博多ツナバ町 電話291-4222

与一 人形
ぼん 与一工房
ツナバ町
電話 4164